

「1950年代教育史」研究部会（第22回）

日時：2018年1月12日（金）13:00～16:00

場所：野間教育研究所 2F 閲覧室

出席：米田俊彦・大島宏・須田将司・鳥居和代 各兼任研究員

吉久知延所長・金沢千秋・川上智子

欠席：西山伸兼任研究員

内容：（1）大島宏研究員報告：1950年代における高等学校分校

- ・分校の制度的な位置づけ

1948年 学校教育法施行規則の中に分校の規定あり→1953年一部改正により削除

- ・分校の特徴（『新制高等学校実施の手引』1947年）

新制高等学校教科課程の一部を施すことができる（全部を実施することはできない）

単位制（全部の生徒が卒業する必要はない）

本校と分校の設置者の関係（原則として同一、困難な場合は異なっても特例として認める）

- ・設置状況：学校基本調査報告書より都道府県別の1950-60年の増減数を一覧表化

ほとんどの年で毎年減少

（50-53年の増加は新制高校となって増えた生徒の受入れのため）

- ・分校に関する財政

公立高校の定時制課程の職員給与は国庫が十分の四負担（1950年）は1954年に執行停止

→定時制高等学校・分校の統廃合による存廃の危機

（2）鳥居和代研究員報告：千葉県総合教育センターの所蔵資料について（1）

- ◆千葉県教育研究所研究紀要第33集『長期欠席のこどもたち』（1957年）から「第2章 揚繰網・小舟漁業地帯の長期欠席のこどもたち 銚子市高神地区の場合」を

- ・以前報告した記録映画『九十九里浜のこどもたち』の舞台、銚子市立第二中学校の取り組みや、銚子市の長欠対策について詳しい

- ・銚子二中：早くから対策、以前から欠席者目立つ（戦前からの傾向）

48年には補導学級の前身「研究学級」創設

53年度にも市から、主任教諭を補佐する対策教員助手1名派遣

55年度から市の対策教員、56年度には県からの対策教員配置

- ・映画からは見えなかった詳細な対策がわかってきた→家庭訪問、出校のさせ方（女子は家事を終えて子守しながらも毎日登校、男子は漁に出られない雨天の日が大部分）、指導方法、設備（子守用のベビーベッドや幼児の遊び道具）

・次回研究会は、2018年2月16日（金）13:00～ 西山研究員、米田研究員

・次回以降のスケジュール 2018年3月29日（木）13:00～ 須田研究員、大島研究員